

## 2001年1月から2021年3月31日の間に京大病院で 腎摘除、腎部分切除術を行った患者さんへ

京都大学泌尿器科では、ヒト腎臓癌（腎細胞癌）の手術標本・生検標本に関して、病理診断を確定した残りの病理標本を利用して、熊本大学泌尿器科学講座並びに国際先端医学研究機構を主たる研究施設とした以下の多施設共同研究に参加しています。

### 1. 研究名

「転座腎細胞癌の実態把握と解析 - 多施設共同研究」

### 2. 研究の対象

2001年1月～から2021年3月31日の間に腎細胞癌で手術治療を受けられ、さらに手術検体が保管されている方が対象となります。

### 3. 研究の目的・方法

転座腎細胞癌はWHO分類で新たに定義された腎臓癌です。遺伝子の発現を調節するTFE3又はTFEBという分子の異常が腎臓の細胞に起こることで、この転座腎細胞癌が起こります。転座腎細胞癌は成人腎細胞癌例のおよそ1～5%とされており、きわめて発生頻度の低い腎臓癌です。転座腎細胞癌は頻度が低いうえに、確定診断に特殊な組織診断方法(FISH又は免疫染色)が必要とされます。そのために転座腎細胞癌の詳しい性質はまだ完全には把握されていません。一般には若年者に多く悪性度が高い傾向があると言われていますが、進行した転座腎細胞癌に対して最も有効な治療方法がどのようなものかというコンセンサスも、まだ確立されていません。このように症例数が少なく、病理組織診断がその診断に重要なウエイトを占める転座腎細胞癌の全容を明らかにするために、熊本大学では全国の大学や病院と協力して多施設共同研究を行っています。

具体的な研究内容は、臨床経過や病理組織診断から転座腎細胞癌が疑わしい症例及び転座腎細胞癌と診断された症例の病理組織標本を、腎臓癌の診断を専門とする病理医が再評価します。病理組織診断で転座腎細胞癌と診断された病理組織標本を、さらに詳細に検査（免疫組織染色、FISH）し、併せて様々な臨床情報（年齢、性別、ステージ、悪性度、血液検査データ、画像検査所見、臨床経過、治療方法、予後等）を解析し、我が国における転座腎細胞癌の実態を解明します。本研究を行うことにより、転座腎細胞癌のより良い診断方法や治療方法の確立に役立てます。

なお、研究に参加される方の権利を守るため、この臨床研究を開始する前に、研究を実施することの適否について京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会にて審議・承認がなされ、当院院長の許可を得ています。

### 4. 研究期間

この臨床研究を実施する期間は2017年12月26日から2021年3月31日までです。

#### 5. 共同研究機関に提供する試料・情報

病理組織標本及び臨床情報は全て匿名化した後に解析を行い、個人情報が開示することは一切ありません。また、この臨床研究では、既存のがん組織と情報を提供いただくため、この臨床研究に参加いただくことによる新たなご負担はありません。

- ・腎細胞癌の手術検体（既に保管されているもの）
- ・年齢，性別
- ・診察所見、治療内容、血液検査の結果など

#### 6. 利益相反に関して

本研究は国から交付された研究費（科学研究費）研究助成金の協力を得て行われますが、費用の出資者とは無関係に公正に行われます。利益相反については、「京都大学利益相反ポリシー」「京都大学利益相反マネジメント規程」に従い、「京都大学臨床研究利益相反審査委員会」において適切に審査・管理をしています。

#### 7. 相談窓口

この研究内容についてさらに詳しく知りたい等、ご質問・ご希望がございましたら、以下にご連絡ください。

##### 研究責任機関

熊本大学国際先端医学研究機構 担当 馬場 理也

電話 096-373-6836、 e-mail address: [babam@kumamoto-u.ac.jp](mailto:babam@kumamoto-u.ac.jp) )

##### 共同研究機関

京都府京都市左京区聖護院川原町 54

京都大学病院泌尿器科 研究責任者 小川 修

研究分担者 赤松 秀輔

電話 075-751-3337 FAX 075-751-3740

京都大学医学部附属病院 相談支援センター

電話 075-751-4748

E-mail [ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp](mailto:ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp)